

ハオルシア ニュース

HAWORTHIA NEWS No. 32 2016年12月

寒さ厳しき折、防寒対策には十分ご留意ください。さてお待たせしていたハオルシア研究32号をお届けします。

【ハオルシアフェスタ 2017】

4月23日(日)午前9時より、東京両国の国際ファッションセンター3F KFCホール annex にて開催。

(東京都墨田区横綱 1-6-1(03-5610-5801)。第一ホテル両国と同じ建物です。)

品評会(日本ハオルシア大賞2017)の他、即売会、セリ会があります。詳細案内は後日送付予定。

【会費納入のご案内】

- ◎ 振込用紙が同封されている方は、32号で購読料(会費)切れです。2号分の予約購読料 5千円を送金してください。
- ◎ 予約購読料は郵便振替で「00160-0-182141 日本ハオルシア協会」宛ご送金ください。
- ◎ 振込用紙が同封されていない方は33号以降まで購読料を払い込み済みです。ご送金の必要はありません。

【入門書の発行について】

ハオルシアを知っている、あるいは実際に多少栽培しているが、もっとよく知りたい、と言う人のための入門書が今年5月末頃発売される予定で、当会監修により編集作業が進んでいます。一般書店で一般読者向きに販売されるハオルシア専門の本はおそらく世界で初めてです。これまでのマニア向け写真集などではほとんど取り上げられることのなかったオプト類やレース系その他原種系の優良品種も多数紹介される予定です。入門書ですから栽培法や管理法、特に室内栽培上の注意点、なども詳しく説明されます。

【盗難防止策について】

昨年来、ハオルシア栽培家の温室に泥棒が入り、玉扇、万象他の優良品種が大量に盗まれるという事件が続発しています。最近の市場価格からすると、1件当たり何千万円もの大変な被害額です。ハオルシアは価格が高騰しているため、盗難の危険性はこれまでになく高まっています。早急に有効な盗難防止策を取られるようお勧めします。

【優良品種の安定供給について】

盗難事件が頻発するのはハオルシア優良品種の価格が急上昇していることが根本原因ですが、さらにその原因は人気(需要)の上昇に供給が全く追いついていないことです。ハオルシアの組織培養はすでに多くのサボテン業者やセミプロの方が行っているのですが、これらの人は価格の低下を恐れて供給(販売)を意図的に絞っているため、市場には十分な量の苗が供給されていません。

しかし本当は優良品種を手ごろな価格で安定的に供給することで、より多くの人々がハオルシアを楽しむようになり、市場全体の規模(愛好家人口)を拡大するようにすることこそが正しい方向性であり、当会が目指すべき目標だと思います。

残念ながら現在組織培養でハオルシアを繁殖している業者やセミプロの方のほとんどはその意思がないようです。あるいは意思はあっても生産能力や栽培施設規模の点で困難ではないかと推定されます。

そこで当会ではこの度日本最大の組織培養会社や多肉植物栽培場(生産農家)と提携し、ハオルシア優良品種の大量生産に乗り出すこととしました。本格的販売開始は3年後の予定ですが、それ以前でも苗の準備(馴化)ができ次第、順次販売をしていきます。販売価格は小苗で2~3千円程度、玄武や桃源郷クラスでも1万円以下とする方針です。実際の販売は提携業者に委託し、また購入できるのは当会会員限定とする予定です。

この価格で趣味家市場で5年ほど販売した後は、一般市場(花屋の店頭やホームセンターなど)で千円以下で販売する予定です。もちろんこの場合は非会員でも購入できます。

さらに一部の優良品種は欧米の一般市場で1品種10万本以上の販売を計画しており、すでに多数のカルスがヨーロッパの培養会社に正規の輸出手続きで送られ、試験培養されているところです。

【ハオルシアの趣味家人口について】

ハオルシア園芸の現状を理解するうえで最も基本的な要素は、どれくらいの愛好家がいるかということです。また一口に愛好家と言っても熱心なマニアから、関心はあるがたまにホームセンターの園芸コーナーを覗いてみる程度の方まで様々な程度の愛好家の方々があります。そこでこれを表1のように整理してみました。

表1 ハオルシア愛好家等の区分と人口

No.	区分(上の区分は下の区分を含む)		愛好家人口
	区分名	各区分の定義	
①	一般園芸愛好家	園芸やガーデニングを楽しむ人	3千万人
②	多肉植物愛好家	園芸店やホームセンターなどで多肉植物を買って楽しむ人	50万~100万人
③	多肉植物マニア	ハオルシアを含む多肉植物全般を相当量栽培している人	5千~1万人
④	ハオルシアマニア	ハオルシアを中心に栽培する人	500人

まず、①の日本の園芸愛好家全体の人口は政府の社会生活基本調査によると「園芸、庭いじり、ガーデニング」をする人は約3200万人(2006年)、レジャー白書(2015)によると「園芸、庭いじり」をした人は3000万人ということです。調査や年により変動はあるものの、およそ3千万人が園芸愛好家と見られます。

②の多肉植物の一般的愛好家人口の推定は難しいですが、例えばもっともよく売れた多肉植物として'鑫鑫'(しんしん。花月(金のなる木)鮮明斑)は累計20万鉢ほど売っていますから、その3倍くらいは多肉愛好家がいるだろうと推定されます。より確かな数字としては、花き園芸新聞の調査による全国の花き卸市場でのサボテン、多肉植物の取引量が2015年1年間で531万9千鉢という統計があります。卸市場での取引ですから、商品はホームセンターや花屋などに並ぶことになるわけですが、そこで多肉植物を買う多肉植物愛好家1人が年平均5鉢買うとすれば愛好家の人口は約100万人、1人が年10鉢買うとすれば多肉植物愛好家の人口は約50万人ということになります。意外と多いです。

③の多肉植物マニアの人口としては、日本多肉植物の会(現NPO法人)の最盛期の会員数が1500人、サボテン業者のカタログで最も発行部数の多いのが1500部ですから、多肉植物マニアの人口はその3倍程度以上、5千人から1万人程度と見られます。

④のハオルシアを中心に栽培しているハオルシアマニアですが、ヤブオクなどにハオルシアを多数出品している人の中では日本ハオルシア協会会員ではない方が会員である方の3倍程度はいると推定されます。日本ハオルシア協会会員は約150人ですから全国ではおおよそ500人程度のハオルシアマニアがいると推定しています。

ハオルシアマニアの中には全国または各地の趣味家クラブのセリ会などにいつも顔を出す熱心な中核のマニアがいます。数十万円もするハオルシアを売買するのはこの中核層で、全国におおむね100人程度いると思われれます。盗難事件や高値取引で有名になったハオルシアですが、それら事例のほとんどはこれらの方々のもので、玉扇、万象が収集の中心で、比較的裕福な中高年の男性が中心ですが、若手が少ないので将来的には縮小する可能性があります。

一方、ハオルシアを中心に栽培しているが、趣味家クラブのセリ会などにはほとんど顔を出さないハオルシアマニアもいます。これらの方はオブツーサ類を中心に栽培しており、また家庭の主婦やOL、学生などが中心なので、玉扇、万象が高値で取引されるセリ会にはほとんど出かけません。しかし資金がないからではなく、あっても玉扇、万象よりオブツーサの方が好みようです。人口的には玉扇、万象中心の愛好家よりはるかに多く、④のハオルシアマニアだけで見てもその3倍以上の人口があると推定されます。

ハオルシアの愛好家には玉扇、万象を中心に栽培する玉万派とオブツーサなどが中心のオプト派、それにピクサ、スプレンドゥスなどのレツーサ系が好みのピクサ派とがいます。ピクサ派は玉扇、万象、あるいはオブツーサもある程度収集するのに対し、玉万派はオブツーサにはあまり関心がなく、反対にオプト派は玉扇、万象には見向きもしないという傾向があります。

玉万派は日本ハオルシア協会の発足時には会員のほとんどすべてがそうでしたが、今でもハオルシアブームの中核層です。各地のセリ会などで高値で取引されるハオルシアのほとんどはこの中核層の愛好家間の取引です。しかし人口で見ると玉万派は現在のハオルシア協会会員の内、約1/4の30人強です。ハオルシア協会会員全体の1/2はオプト派、全体の残り1/4はピクサ派です。

②の多肉植物愛好家、すなわち「ホームセンターや花屋などで多肉植物を買って楽しむ人」の中でハオルシアに関心を持つ人は少なくとも10万人から30万人くらいいると見られます。③の多肉植物マニアでハオルシアの愛好家は少なくともその1/3程度の2千人から5千人くらいいると推定されますが、そのほとんどはオプト派と見られます。一方、それほど熱心でない方も含め、玉万派は多く見積もっても全国でおおよそ1千人程度ではないかと見られます。

このような愛好家および会員の人口構成を考えると、当会が主にオプト類を中心に栽培している一般的なハオルシア愛好家、全国で少なくとも10万人、を主な対象として運営していくのは自然な流れだろうと思います。またこの層の愛好家人口は、ホームセンターなどでハオルシア優良品種が手軽に買えて楽しめるようになれば今後さらに拡大し、100万人に達する可能性も十分あると見ています。

一方、玉万派のマニア層は、美しいから、好きだからではなく、価格が高い、販売利益が大きいという金銭的理由で参入する人が多く、いささかゆがんだ状況です。白妙のように素人目にも美しく、特徴の明瞭な優良品種を手ごろな価格で供給して玉万派の愛好家を増やすようにしないと、将来的にはさらに先細りになってしまう可能性があります。

【品種名の商標登録について】

日本ハオルシア協会では品種名の整理統一を進め、異名や不正使用を排除するために、重要な品種名を商標登録することとしました。すでに白妙や玄武など、最重要な100以上の品種名を登録申請中で、さらに100ほどの品種名を追加して登録する予定です。

商標登録された品種を**営利目的**で販売する時は当会(商標権者)または当会から委託を受けた商標管理者(原則としてその品種の育成者)の承諾が必要です。一般趣味家がカキ仔や葉挿しで小規模に増やしたものを売る場合は商標権者の承諾なく販売可能ですが、サボテン業者や培養で大量繁殖しているセミプロの方などは必ず承諾を得てください。ヤフオクなどでの販売も同様です。無断販売すると商標法違反で損害賠償を請求されます。

また、例えば玄武が商標登録されると、玄武錦は類似商標となるため、玄武錦を販売する際も商標権者の承諾が必要です。「スーパー」「特良」「斑入り」「実生」「系」「交配」などを前後に付けても同じです。

商標はその商標を使用する分野が45の区分(類)に分けられており、ハオルシアの苗などはその内の31類(生きている動植物等)に区分され、さらに苗、種子などの小区分に分けられて類似商標の判定が行われます。しかし商標にはハオルシアという区分はもちろん、観葉植物とか、多肉植物とか言う区分もないので、例えば同じ31類の中に「玄武」という名のバラが商標登録されていれば、その名はハオルシアでは使えません。「玄武」は先行登録がないので登録できる見込みですが、「スバル」(富士重工)や「ドラゴン」(中日ドラゴンズ)は既に31類に登録されている既存商標なので、名前を変える必要があります。

したがって、サボテン業者などが日本ハオルシア協会を通さずに独自に品種名を登録してもその名がバラの名前か、菊の名前か、稲の品種名かは誰も判定できません。ある名前が特定のハオルシア品種の名前であると判定できるのは国際栽培品種登録機関である日本ハオルシア協会だけです。業者が独自に商標登録しても、その名は何の名前なのかわからない、単なる既存商標です。同一または類似の既存商標がある場合には当会が別途正名を指定し、その名を商標登録することになります。この場合、その既存商標は異名となります。

さらに商標登録された名前を使わずに、その品種を別名(異名)や一般名、あるいは無名で業者が販売すると不正競争防止法違反(2条14項 産地・品質等誤認惹起)でやはり損害賠償を請求されます。

なお、ハオルシア品種の育成者で当会会員の方は、自分が育成した品種の商標管理者となることができます。商標管理者となると第三者が営利目的で繁殖した苗すべてについて、販売する際にその名前(商標)の使用を許諾(または拒否)することができ、その名前に対して任意の使用料金を徴収できます。これにより品種の育成者はその品種を繁殖して商売する人から育種にかかった費用を回収できます。もちろん当会が培養などで繁殖して販売する場合でも育成者には一定のロイヤリティをお支払いします(この場合、当会は商標権者自身なので、支払名目は使用料ではなくロイヤリティとなります)。

将来的には品種名と通し番号を書いた当会専用のラベルを発行し、購入者に対し真正品であることを保証すると同時に偽物などの不正流通を防止するようにする予定です。

商標管理者の主な資格、条件は以下の通りです。ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

- ① 当会会員であること。
- ② 国際栽培植物命名規約を順守し、異名や重複名を使わないこと。
- ③ 商標登録費用(1品種10万円)を負担すること。年2万円ずつ5年間の分割払い可。

【新品種名の登録について】

これに伴い、当会への新品種名の登録手続きも以下のように改めます。

④ ハオルシア新品種の名前を国際栽培品種登録機関である日本ハオルシア協会に登録する場合はこれまで通り、ホームページ掲載の所定の書式で申し込んでください。登録は無料で、会員、非会員を問わず登録できます。

⑤ 当会の機関誌ハオルシア研究およびホームページで取り上げられ、紹介された品種は、上記④の登録申請がなくても原則自動的に登録になります。

⑥ 他の出版物等で発表された品種名は、当会でその名をハオルシア研究誌等で紹介した場合を除き、新品種名リストには掲載されません。つまり他の出版物に掲載されただけでは新品種名として認定されません。新品種名として登録したい場合は、別途④の手続きで登録申請してください。

申請がない場合、後から同じ名前が登録されるとそちらが正名となり、先に発表した名前は重複名となります(登録がないと優先権は保護されません)。

⑦ 新品種名として登録されるには、国際栽培植物命名規約に従っていることその他、すでに品種登録や商標登録されている名前と同一または類似でないことが必要です。そのような名前は変更する必要があります。

- ⑧ 新品種名を商標登録し、商標管理者になりたい場合には、③の登録費用10万円(分割払い可)を負担してください。

参考資料 1. 販売業者

商標登録された名前(商標)を使う場合に、商標権者の承諾が必要になる販売業者は以下のように定義されています。
『インターネット・オークションにおける「販売業者」に係るガイドライン』(消費者庁、経産省)より引用。)

『販売業者とは、販売を業として営む者の意味であり、「業として営む」とは、営利の意思を持って反復継続して取引を行うことをいう。営利の意思の有無は客観的に判断される。例えば、転売目的で商品の仕入れ等を行う場合は営利の意思があると判断される。』

「営利の意思」及び「反復継続」は、インターネット・オークション以外の場における取引も含めて総合的に考慮して判断される。すなわち、例えば、インターネット・オークション以外の場(インターネット、現実の場を問わない)における事業者が、その事業で取扱う商品をオークションに出品する場合は、その数量や金額等にかかわらず原則として販売業者に当たる。したがって、例えば、個人事業者が現実の場における事業で取扱う商品を、単発的にインターネット・オークションを利用して出品する場合は、販売業者による取引に当たる。』

上記ガイドラインでは具体的な基準として次の様な目安を設けています。

- ① 過去1ヶ月に200点以上又は一時点において100点以上の商品を新規出品している場合
- ② 落札額の合計が過去1ヶ月に100万円以上である場合
- ③ 落札額の合計が過去1年間に1,000万円以上である場合

『但し、これらを下回っていれば販売業者でないとは限らない。』上記ガイドラインより。

例えばヤフオクで優良出品者としてゴールドランクなどにランク付けされている場合は販売業者と見られます。

参考資料 2. 不正競争防止法

『第二条 この法律において「不正競争」とは、次に掲げるものをいう。

十四 商品若しくは役務若しくはその広告若しくは取引に用いる書類若しくは通信にその商品の原産地、品質、内容、製造方法、用途若しくは数量若しくはその役務の質、内容、用途若しくは数量について誤認させるような表示をし、又はその表示をした商品を譲渡し、引き渡し、譲渡若しくは引渡しのために展示し、輸出し、輸入し、若しくは電気通信回線を通じて提供し、若しくはその表示をして役務を提供する行為』

したがって正名が国際栽培品種登録機関により指定され、かつその名が商標登録されている場合、同じ商品を別名(異名)や一般名あるいは無名で販売すると、消費者が別商品だと誤認する恐れがあり不正競争に当たります。さらにその品種名が著名表示あるいは周知表示だと見られる場合には不正競争防止法第2条1項ないし2項にも該当します。

【会員専用ページの開設について】

当会ホームページに会員専用のページを開設し、会員サービスの一層の向上を図ることを計画しています。

まず、これまで掲示板で受け付けていた品種名や種名の質問は会員専用ページのみでの受付となります。したがって会員以外の方はこれらの質問はできないことになります。回答は原則会員専用ページで行いますが、非会員の方にも回答をお知らせした方がよい場合は質問、回答とも掲示板に移動されます。

次に会員専用ページではハオルシア研究誌や当会ブログで紹介された品種の写真の大サイズで見られるようにします。写真のサイズが大きくなると迫力が違い、ときには全く違った印象になる場合があります。順次UPしていきますので、ご期待ください。

その他、育成途上で未命名の有望品種の写真や新発見の未命名新種なども適宜紹介していく予定です。

【ベラボン栽培法】 室内栽培に適した栽培法の紹介

ベラボンはココナツの殻を砕いてあく抜きした植込み資材です。赤土や鹿沼土などは一切使わず、ベラボン単用で植えこみます。粒子の大きさはM(5mm角、一般用)または8M(8mm角、大苗や玉万用)が適当で、3～5年は腐りません。

まず鉢底に鉢底全体が隠れる程度の大きさのトレーメイトという不織紙(魚の切り身のトレーの底に敷いてあるもの。ネットで購入可)を敷きます。これによりベラボンの細かな屑が鉢穴からこぼれてテーブルなどを汚すのを防ぎます。

つぎにベラボンを鉢内のトレーメイトの上に薄く(1～2cm)敷き、マグアンプなどの肥料を適量おきます。後はベラボンだけを使って普通に植え込みます。ベラボンはあまり強く詰め込むと過湿になる場合があります。

最後に、特に中小苗では、上砂として赤土の細粒(1～2mm)に殺菌剤(トップジン等)を混ぜたもの(赤土3Lに小さじ山もり1杯)を薄く表面に敷きます。大苗では上砂なしに根際だけに敷きます。殺菌剤を混ぜるのは赤土細粒を表面に敷くと時として軟腐病などが出ますのでその防止用です。水やりは赤玉鹿沼混合用土の場合よりやや多めが良いです。

ベラボン単用なので用土を調合する必要がなく、非常に軽くて、より清潔で、かつ残土を燃えるゴミとして捨てられます。ただしベラボン(販売元フジック)以外のココチップではアクが強く、うまく育ちませんので要注意です。

なお、ココチップはナメクジに対して非常に強い忌避効果があり、通路にこれを敷くと温室から見事にいなくなります。